

ともだち談話



令和 8 年 (2026 年) 3 月 6 日 発行

今号では、本校の地域との交流の様子をお伝えします。是非ご一読ください。

1 保育所との交流の様子

小学部低学年ブロックでは、例年あけぼの保育園の園児との交流を行っています。1年生は初めて、2年生は昨年度も交流をしているので、1年ぶりの交流でした。最初は少し緊張していた子どもたちでしたが、自己紹介やゲームをするうちに笑顔が広がっていきました。

ブロック運びリレーでは、息を合わせて協力する姿が印象的でした。パラバルーンでは、一緒にパラバルーンを持ったり中に入ったりしながら、笑顔いっぱいの時間を過ごしました。(文責：浅野)



2 プルタブ回収の様子

中学部は総合的な学習の時間に学校近隣の3つの町内会を周り、地域の方々からプルタブの回収を行っています。生徒が分担して、町内会の方からプルタブをいただき、専門の業者の方に送り車いすに交換しています。今年度は目標量が貯まったので、車いすと交換し、近隣の事業所に贈呈させていただきました。

この取り組みを通して、生徒は本校近隣の方々と触れ合い、多くのことを学ぶことができました。御協力してくれた皆様、ありがとうございました。(文責：宮崎)



3 幕別清陵高等学校との交流の様子

北海道幕別清陵高等学校の地域連携プロジェクトの一環として、清陵高等学校2年生と本校高等部3年生との交流学习を行いました。清陵高等学校2年生の皆さんがグループリーダーとなり、ビー玉アートを行いました。高等学校の皆さんが用意した、段ボール製の枠に模造紙を置き、インクの付けた野球ボールを転がして色を付けました。ボールも試作を繰り返し、野球ボールが一番色の付きが良かったようです。段ボール枠の四隅をそれぞれ生徒が持ち、息を合わせながらボールを右へ左へ転がしました。偶然が描くアート、生徒達は目を輝かせて取り組んでいました。(文責：佐藤)



4 居住地校交流の様子

居住地校交流とは、特別支援学校に通う児童・生徒が自宅周辺地域との繋がりを維持するため、校区にある公立小・中学校等と行う交流教育活動です。交流活動には、居住地の学校および会場に向いて交流を行う直接交流と通信や手紙のやりとりを行う間接交流があります。また、対象は小・中学部の児童・生徒となります。

今年度は小学部低・中学年ブロックで15名、中学部で3名の児童生徒が直接交流を行い、中には複数回交流を重ねた児童生徒もいました。実施に至るまでには事前に児童生徒の実態について情報共有を丁寧に行い、実態に合わせた交流内容を計画します。内容については、朝の会から給食、帰りの会まで丸一日交流をする、図画工作や音楽、体育、生活単元学習などの教科の限られた時間で交流をする、など児童生徒の実態によって様々でした。

交流後には初めて交流を受け入れていただいた学校からは「実際に児童と会ってみて、好きなことがわかったので、次年度以降はもっと楽しんで貰える内容を考えたい」、昨年度以前から交流を継続していただいている学校からは「久しぶりに会えてうれしそうだった」などの温かい感想をいただきました。

居住地校交流は居住している校区の学校で同年齢の児童生徒と関わることで、児童生徒の経験を広げ、社会性や適応力を高めたり、今後の社会生活を支え合う地域の仲間としての基盤をつくったりする機会でもあります。来年度も本校と居住地校の双方の児童生徒にとってお互いが学び合う、自立に向けた大切な時間となることを願っています。(文責：浅野)

今年度の「ともに語る」は今回が最終号になります。子ども達への日々の支援において、何か一つでもヒントになれば幸いです。一年間お読みいただき、ありがとうございました。